

岩淵・中之郷地区

日持上人の足跡を偲ぶ(南松野地区)

南松野地区は、日蓮聖人の高弟・六老僧のひとりで大陸へ布教活動に渡った、日持上人の生誕地として日蓮宗との関係が深い土地です。また、戦国時代には、武田氏の支配下におかれ、松野六人衆や血流川の伝承など、戦乱の世にまつわるさまざまな伝承が残されています。

◆南松野地区で見られる主な石造物

- 【道祖神】 道陰神、岐神、幸神、賽神などと呼ばれる路傍の神で、さまざまな信仰、習俗、行事などがあり、とても生活に密着した神です。双体の道祖神は、この地域では唯一のものであります。
- 【白衣観音】 三十三観音のひとつ、如意輪観音の坐像で、歯痛を鎮める観音「はくせんさん」として信仰されました。
- 【馬頭観音】 馬頭観音は、頭に馬の頭をいだいた観音像で、唯一憤怒相をしています。馬の供養とあわせて、特に江戸時代、庶民に信仰されました。
- 【題目塔】 日蓮宗独特の書体「題目目」で、「南無妙法蓮華経」と彫られた石塔です。
- 【六地藏】 地藏が、六道(地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上界)を輪廻転生する衆生を救済することから、六つの分身を考えて六地藏として信仰されました。
- 【七夜待】 密教で毎月17日夜から23日までの7夜、千手観音、聖観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音、勢至菩薩を順次、本尊として祀り祈願成就を祈願する信仰です。

「日持上人の足跡を訪ねる」
この地で誕生し大陸へ渡った日持上人の旧跡を歩く

移動時間	バス	徒歩
約1時間	JR富士川駅 10分	10分

戦乱の世、荻氏の跡を偲ぶ(北松野地区)

北松野地区は、南北朝時代末期から戦国時代まで、この地に居館を構え、清和源氏の支流・荻氏の居館址(土塁)、北松野城址、みのふ道など貴重な遺産が狭い範囲にまとまって残されています。

◆北松野地区で見られる主な石造物

- 【妙松寺の墓石群】 妙松寺の墓地には、この地域では最も古いとされている江戸時代初期から中期にかけての墓石を見ることができます。また、境内には題目塔、経典講読塔などの石造物が残されています。
- 【荻氏の居館】 荻氏歴代の五輪塔や内房口の合戦で討ち死にした荻図書之助清善の墓と伝えられる宝篋印塔が残っています。
- 【大本寺址】 永禄12年(1569)、武田信玄が、興隆薩摩山での北条氏との合戦の帰路、荻氏の居館、妙松寺、大本寺を焼き払い、その明かりをたよりに甲府に帰ったという伝承があります。裏山には、経典講読塔、万善塔などの石造物が残っています。
- 【馬頭観音】 馬頭観音は、頭に馬の頭をいだいた観音像で、唯一憤怒相をしています。馬の供養とあわせて、特に江戸時代、庶民に信仰されました。
- 【経典講読塔】 経文を講読して功德を得ることは、仏教修行のひとつで、講読した経典の名称や回数記録した石塔です。
- 【万善塔】 生きとしけるものすべてに霊を宿らせ、塔に繰り返し向うことにより霊を供養しようとするための石塔です。

「日身延道と荻氏の歴史を訪ねる」
武田氏の攻防を偲ぶ荻氏の居館址を歩く

移動時間	バス	徒歩
約1時間	JR富士川駅 10分	45分

交通案内

富士市 富士川西側地区

アクセスいろいろ

観光のお問い合わせは

富士市 交流観光課 0545-55-2777
 新富士駅観光案内所 0545-64-2430
 富士市観光案内所(富士川西側事務所) 0545-81-5556
 富士市観光協会 0544-27-5240
 山梨交通バス 0544-27-0111

富士市 観光ガイド協会「渡しの家」
 TEL 0545-81-1280 (富士市商工会富士川事務所内) FAX 0545-81-2716
 ガイド料/資料 申し込み/2名以上で2週間前までに申し込みください。
 ※申し込み、お問い合わせは平日にお願いします。

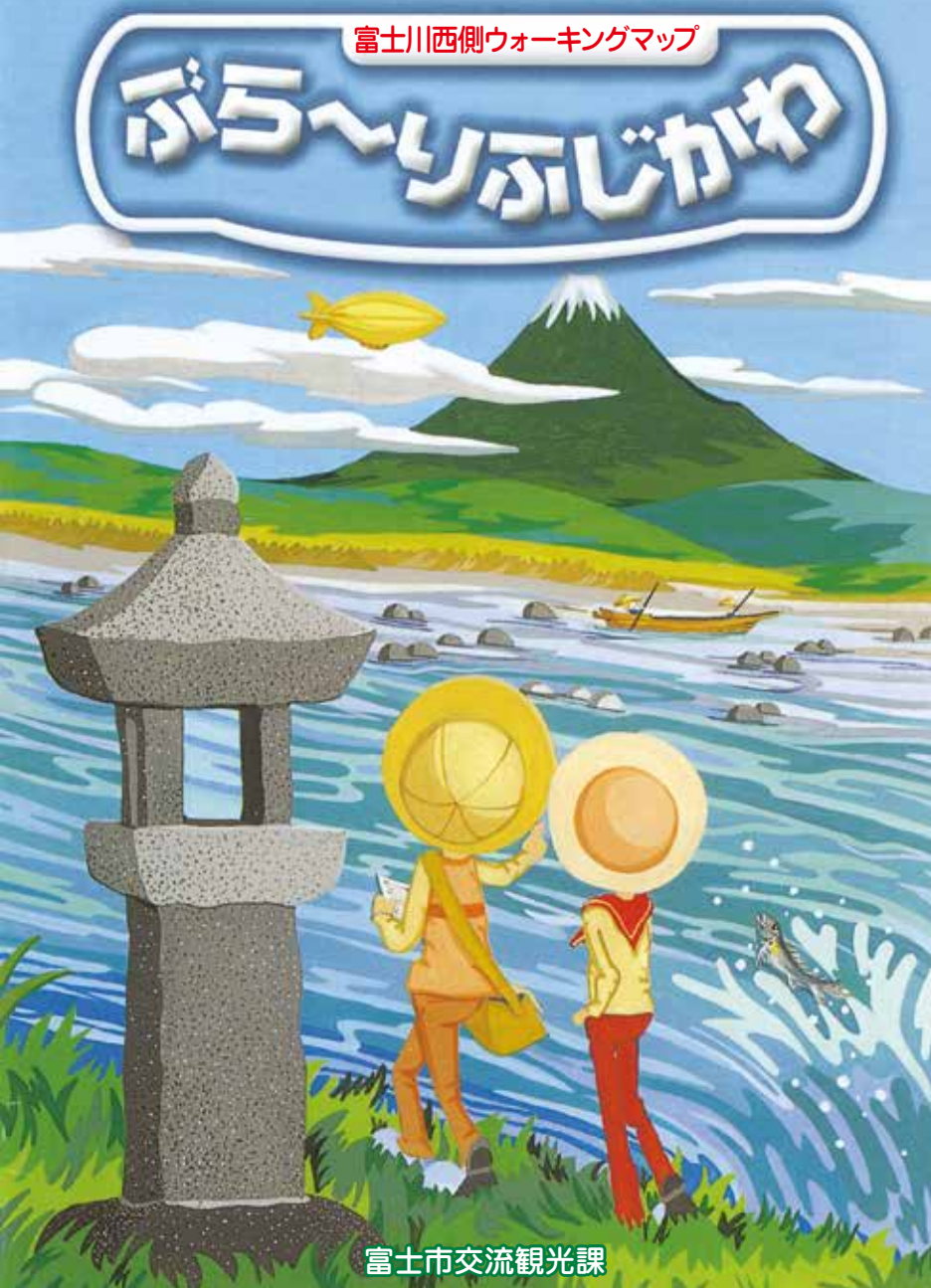
令和5年2月改訂

街道を行き交う旅人を偲ぶ(岩淵・中之郷地区)

岩淵・中之郷地区では、旧東海道に沿って寺社の境内などに、さまざまな石造物を見ることができます。特に岩淵地区は、交通や物流の要衝として隆盛を遂げたこと、富士川渡船や舟運に関連した石造物を見つけることができます。

◆旧東海道、寺社の境内などで見られる石造物

- 【笠被り地藏】 笠被り地藏は、中之郷村の名主、田中傳四郎が幼くして通った幼児の供養のため信州高遠の石工、又兵衛と金左衛門に建造させ、寛政9年(1797)に寄進しました。
- 【岩淵渡船河岸安全供養塔】 岩淵渡船河岸安全供養塔は、文化6年(1809)、密蔵心宗和尚の代に駿州徳倉の石工、勘左衛門好盛と岩淵村の石工、天野久蔵に依頼し建立されました。このほか、新豊院には、山門、火伏地藏、六地藏、念仏塔、巡拝塔、百万遍念仏塔などがあります。
- 【芭蕉の句碑】 句碑の正面と左右に、「風になびくこの富士川の波かな 乙卯」「歌しつれ富士を見ぬ日ぞ面白き ばせを」「奥の斗の富士を隠して時雨時 白盆」の歌が彫られています。芭蕉の句は江戸から門弟千里を群って故郷伊賀におもむく際に、箱根の関所を越えるときに詠んだ句で「甲子吟行」に載せられています。
- 【十三仏・大村西産墓所】 十三仏は、死者の追善の法事をおさめるとき、その忌日にあたる十三の仏を信仰するものです。岩淵村の名主で渡船役、斎藤縫左衛門家の墓所に、元禄年間(1688~1703)、死者供養の忌日にちなみ建立されましたが、宝永・安政地震で破損し、慶応元年(1865)に再建されました。林をへだて南側には、新豊院の大観音像を彫った大村西産の墓所があります。大村西産は、東京美術学校教授などを歴任し、明治の美術界の発展に尽力しました。著書には、「東洋美術大観」「密教建築志」などがあります。
- 【秋葉山信仰塔】 遠州秋葉山大権現は、火伏せの神として、各村々に秋葉講があり、さかんに信仰された石塔です。



富士川西側ウォーキングマップ

ぶら〜りふじかわ

富士市交流観光課

「旧東海道の歴史を訪ねる」
旧岩淵の宿馬場の東海道、富士川渡船にまつわる旧跡を歩く

ダイジェストAコース
移動時間 約1時間

ダイジェストBコース
移動時間 約15分

フルコース
移動時間 約1時間40分

暴れ川・富士川と岩淵の変遷

東海道の整備がはじめられたのは慶長6年(1601)、その1年後の慶長7年、これまで町並みさえもなかった岩淵村に富士川渡船の渡船役が徳川政権から許与されました。また、慶長12年(1607)と慶長19年(1614)には、京都の豪商、角倉了以と玄之の父子が幕府の命令により富士川の開削をおこない、幾度かの改良により元和元年(1615)から富士川の上流の開削から下流の岩淵までの18里の通航が可能となりました。暴れ川・富士川の渡船役を許された岩淵村は、東海道の吉原宿、蒲原宿の間の宿として、また賑沢、黒沢、青柳など甲州三河岸との交易を結ぶ岩淵河岸として急速に発展をとり、交通の要衝、物流基地として隆盛を遂げました。また、東海道筋と日蓮宗総本山、身延山久遠寺を結ぶみのふ道の起点のひとつにも数えられました。しかし、明治22年(1889)、岩淵駅が開設されると舟運を利用しての甲州方面への貨物が集まりましたが、明治36年に中央線の一部と笹子トンネルが開通し、大正9年(1920)に身延線の一部が開通したことによって、富士川の舟運は終焉をむかえました。また、富士川渡船は、大正13年に現在の富士川橋がかけられたことにより終止符をうちました。

【東海道】 慶長6年(1601)に東海道の整備がはじまり、つづいて慶長7年、徳川政権から岩淵村に富士川の渡船役が許され、慶長9年には一里塚が整備されました。岩淵村は、周の宿で、旅人の宿泊は許可されていませんでしたが、町並みは宿場に準じて整備されました。家並みは、小休本陣、茶屋、諸土産を扱う店が軒をつらね、宿場にまざる賑わいがあったといえます。岩淵名物には、栗の粉餅、電車の煙草、雨煙の硬などがあつた。また、宿場には、城下町の町並みがかつての大小くつがの屈曲を組み合わせて造成されているのと同様に、カキの手がありました。岩淵にも、西の小休本陣(小休本陣常盤邸)の北100mのところにかきの手を確認できます。ここが東の小休本陣址になります。

路傍の野仏に古き民間信仰を偲ぶ(木島地区)

木島地区は、木島集落、室野集落のそれぞれまとまった範囲で、さまざまな石造物を見つけることができます。

◆木島地区で見られる主な石造物

- 【不動明王】 不動明王は、大日如来の化身で、いっさいの罪障を打ち破り動搖しないことから、不動といわれます。治病、安産、災害の除去、怒敵降伏、淨福など、さまざまな祈願をかなえてくれるとされています。
- 【康申塔】 康申信仰は、中国の道教的三尸説(人間の腹中の三尸という虫が、康申の夜に睡中の身体から抜け出て天に戻り、天帝にその罪過を報告する。)の伝承が由来です。康申の夜は、眠らずにいなければ死がおとすれり不幸がおこるといわれ、人々は康申の夜は眠らずに過ごしたといわれます。また、青面金剛は、康申の本地として信仰されています。
- 【馬頭観音】 馬頭観音は、頭に馬の頭をいだいた観音像で、唯一憤怒相をしています。馬の供養とあわせて、特に江戸時代、庶民に信仰されました。
- 【六地藏】 地藏が、六道(地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上界)を輪廻転生する衆生を救済することから、六つの分身を考えて六地藏として信仰されました。
- 【巡拝塔】 江戸時代に西国三十三所、四国八十八所、または坂東や秩父の霊場などを巡拝した人たちが寄進した供養塔です。
- 【石祠】 奇石、霊石、石剣などを神体として祀る民間信仰の祠です。

「道端にたたく石造物を訪ねる」
不動明王、康申塔、馬頭観音などを訪ねる道歩き

移動時間	バス	徒歩
約1時間	JR富士川駅 10分	40分



さりげなく、いつも日本一。
「四季折々、また朝夕さまざまな表情で、私たちが魅了する富士山」

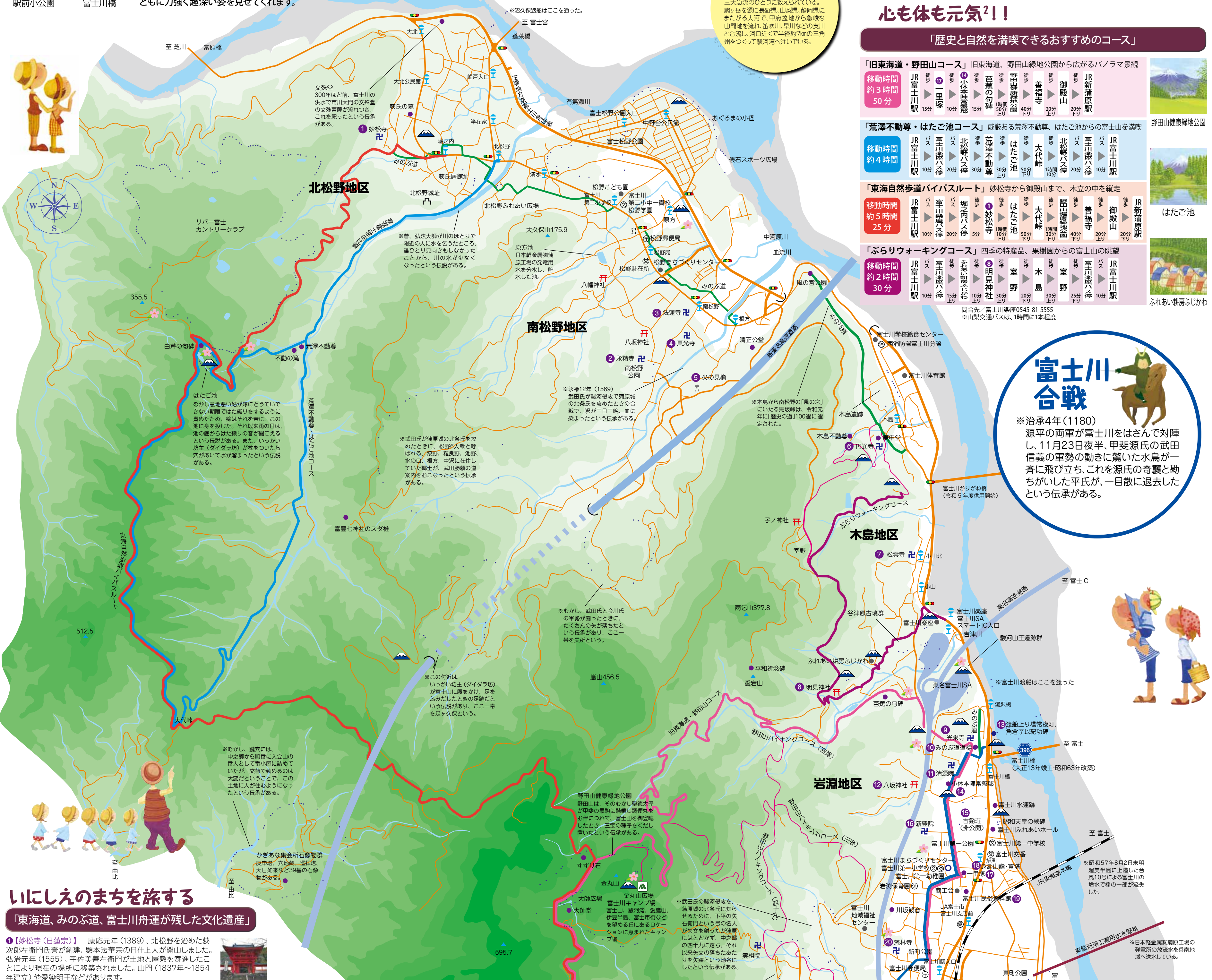
富士山にはさまざまな顔があります。公園から見る富士山、富士川河川敷から見る富士山、旧東海道から見る富士山、畑から見る富士山、山あり川ありさまざまな造形物が富士山の魅力を一層引き立てます。富士山が最も良く見える時期は、おおむね10月から翌年2月までの期間で、晴れた日には美しい富士山の姿を見ることが出来ます。

春から夏にかけては、冬の期間に比べて、姿を見られる回数こそ少ないものの、大雨の直後などに見られる夏富士は、さまざまな変化を見せる雲の情景とともに力強く趣深い姿を見せてくれます。

ぶら〜くふじかわ

日本一の富士山と日本三大急流・富士川の眺めは 世界に誇れる財産

富士川
 (流域面積3,990km²・幹線流路延長126km)
 ふるくから豊上川、球磨川とならぶ日本三大急流のひとつに数えられている。動脈を流し、山梨、山梨、静岡にまたがる大河で、甲府盆地から急峻な山間地を流れ、首吹川、早川などの支流と合流し、河口近くで半径約7kmの三角洲をつくって駿河湾へ注いでいる。



道の駅がサービスエリアとドッキング!

「富士川楽座は、高速道路のSAと一般道から利用できる、日本初の道の駅!」

富士川楽座は、遊びながら楽しく学べる展示施設「体験館どんぶら」、プラネタリウムが楽しめる「わいわい劇場」、フジヤマギャラリーのほか、レストラン、フードコート、地域産品を扱う物販コーナーなど、それぞれのフロアに趣向をこらしたアミューズメントモジュールです。

○8:00~21:00
 ※年中無休
 ※体験館、プラネタリウムは毎週火曜日休館
 ※最新の営業情報はウェブサイトをご確認ください。
 ○富士山まわりの情報 0545-81-5555
 ○JR富士川駅~富士川楽座(バス) (山梨交通バス約8分)
 ○東名高速道路富士川SA(上り線)又は主要地方道富士川延伸線
 ※山梨交通バスは、1時間に1本程度

心も体も元気?!

「歴史と自然を満喫できるおすすめのコース」

「旧東海道・野田山コース」 旧東海道、野田山緑地公園から広がるパノラマ景観
 移動時間 約3時間 50分
 JR富士川駅 徒歩15分 妙松寺 徒歩15分 小本堂 徒歩15分 芭蕉の句碑 徒歩15分 野田山緑地公園 徒歩15分 野田山 徒歩15分 野田山緑地公園 徒歩15分 JR新蒲原駅 徒歩15分

「荒澤不動尊・はたご池コース」 威厳ある荒澤不動尊、はたご池からの富士山を満喫
 移動時間 約4時間
 JR富士川駅 徒歩15分 荒澤不動尊 徒歩15分 荒澤不動尊 徒歩15分 是が池 徒歩15分 大代時 徒歩15分 北松野 徒歩15分 北松野 徒歩15分 JR新蒲原駅 徒歩15分

「東海自然歩道バイパスルート」 妙松寺から御殿山まで、木立の中を縦走
 移動時間 約5時間 25分
 JR富士川駅 徒歩15分 東松野 徒歩15分 東松野 徒歩15分 東松野 徒歩15分 東松野 徒歩15分 東松野 徒歩15分 JR新蒲原駅 徒歩15分

「ぶらりウォーキングコース」 四季の特産品、果樹園からの富士山の眺望
 移動時間 約2時間 30分
 JR富士川駅 徒歩15分 ぶらりウォーキングコース 徒歩15分 ぶらりウォーキングコース 徒歩15分 ぶらりウォーキングコース 徒歩15分 JR新蒲原駅 徒歩15分

問合せ/富士川楽座0545-81-5555
 ※山梨交通バスは、1時間に1本程度

富士川合戦

※治承4年(1180) 源平の両軍が富士川をはさんで対陣し、11月23日夜半、甲斐源氏の武田信義の軍勢の動きに驚いた水鳥が一斉に飛び立ち、これを源氏の奇襲と勘がいた平氏が、一目散に退去したという伝承がある。

いにしへのまちを旅する
「東海道、みのぶ道、富士川舟運が残した文化遺産」

- 1【妙松寺(日蓮宗)】 康元元年(1389)、北松野を治めた茨次郎左衛門尉が創建、顕本法華宗の白土上人が開山しました。弘治元年(1555)、宇佐美左衛門尉が土地と屋敷を寄進したことにより現在の場所に移築されました。山門(1837年~1854年建立)や愛染明王などがあります。
- 2【永精寺(日蓮宗)】 弘安6年(1283)、松野を治めた松野六郎左衛門尉が創建、日持上人が開山し永精寺と名付けましたが、その後、徳川家康の御室、おの方の方が駿河に菩提寺を建立する際に寺格を移動され、永精寺と改められました。日持上人は、日蓮上人の六老僧と称される弟子で、永正3年1月(1295)、布教のために中国大陸に渡ったと伝えられています。
- 3【法蓮寺(日蓮宗)】 天文10年(1541)、日持上人が法華堂を開山し、その後、5世・日持上人により法蓮寺と名付けられました。蔵人職にあった初代・松野六郎左衛門尉行易の屋敷があった場所と伝えられていることから蔵人屋敷といわれています。
- 4【東光寺(臨濟宗)】 臨濟宗妙心寺派に属し、清見氏の末寺です。寺名によれば、室町幕府御師(今川義元の軍師・大原崇宗)の開山と伝えられていますが、永禄3年(1560)と寛政元年(1789)に火災にあい、堂宇や古文書などを焼失してしまったため、開創由緒は不明です。
- 5【火の見櫓】 昭和26年に旧東海道沿いに建設され、平成17年に再建されたもので、国の有形登録文化財に登録されています。屋根は八角形と、特異な形状となっており富士山と一体となった風景は絶景です。
- 6【円通寺(曹洞宗)】 富士市の永源寺4世・當岳了銀和尚が開創、天正3年(1575)、遠雲角随和尚により開山されました。
- 7【松雲寺(曹洞宗)】 永禄3年(1560)、船越鎮護のために松岩長和尚が開創し、元禄13年(1700)、永源寺11世・靈明顯英和尚が開山しました。
- 8【明見神社】 慶長年間以前、秀峯長者により愛宕山の頂上に勧請され、寛文2年(1662)、旧明見山に移築されたと伝えられています。文化3年(1806)には野火により焼失しました。このため、明治16年、現在地へ移転勧請されました。社殿には、明和5年(1768)に寄進されたとされる白馬の木像があります。
- 9【光栄寺(曹洞宗)】 天正10年(1582)、等覚寺3世・日正上人が岩淵大畑に法華堂を開山しましたが、その後、万治元年(1658)に初代・大村惣右衛門の妻・宝樹院の寄進により現在の場所に移築されました。境内には題目道場、境内西側の階段下には身延山道標があります。
- 10【みのぶ道道標】 東海道から日蓮宗総本山久遠寺に参詣する旅人は、岩淵を起点とするみのぶ道から北へ南松野、北松野の立場を経て内房へゆけ、岩淵→木島→南松野→北松野→妙松寺→道安→沼沼→内房場→小栗山→万沢のルートと、おりました。
- 11【清源院(曹洞宗)】 天正年間(1573~1591)、祐天慶和尚が岩淵下屋敷に立、元禄4年(1691)、心岳寺11世・星山茂天和尚が開山し、宝永4年(1707)、富士川の洪水を逃れるため、現在の場所に移築されました。境内には、渡船供養塔があります。
- 12【八坂神社】 慶長7年(1602)以降、船越鎮護のため岩淵大畑に勧請され、寛政7年(1795)に現地に遷座されました。祭神は牛頭天または建速彦佐之命とされています。この神社は、12年毎の甲申に富士山頂上に鳥居を寄進する行事があり、伝承によれば渡船の木材を渡船社領から伐採したことから、御札と渡船の安全祈願をかねて、鳥居を遷したのが始まりといわれています。
- 13【渡船上り場常夜灯】 渡船の安全祈願と夜間緊急時に船を看取るための目印としてつくられたといわれています。かたわらにある石碑は、舟運を目的に岩淵河岸から甲州巖沢まで富士川の開削をおこなった京の豪商・角倉了以を顕彰した紀功碑です。明治の元勳、田中光顕伯爵の撰文です。
- 14【小休本陣常盤邸】 東海道岩淵宿に現存する唯一の歴史建造物で、国の有形登録文化財に登録されています。現存する建物は、安政東海地震以降に改築されたもので、庭園には横(幅約16m)目通り4.5m高さ10m)があります。○土・日・祝日公開 ※平日の見学を希望する場合は要予約 ○富士山かくや姫ミュージアム(富士市立博物館) 0545-21-3380
- 15【古松荘】 土佐出身の明治の元勳、田中光顕伯爵が3年の歳月をかけて明治43年に完成させた別荘で、明治の近代風建築として高く評価されています。現在は創野園文化財財団が所有していますが非公認となっています。※国指定重要文化財(建造物)
- 16【新豊院(曹洞宗)】 正治元年(1199)、真言宗の寺院として開創されましたが、心岳寺3世・學受自文和尚が曹洞宗に改宗し、天文4年(1535)に開山されました。境内には、山門(1679以前建立)、薬師如来像、聖観音像や岩淵渡船河岸安全塔、三十三体の観音石像を四国三十三所の札所になぞらせた西園蔵礼供養塔、伏虎地蔵などがあります。
- 17【岩淵の一里塚】 慶長9年(1604)、徳川秀忠が大久保長安に命じて、東海道整備の一環として、一里(約4km)ごとに街道の高欄に塚を築かせ、塚には主に榎が植えられました。ふたつ塚が当時のまま残っているところはほとんどなく、たいへん貴重で、県指定文化財に指定されています。

身延山詣・寶塔 岩淵の人々に「ほうとうさん」と呼ばれる寶塔は、1892(明治25)年7月に建立されました。1899(明治22)年の東海道沿線開通以降、身延山久遠寺への参拝には、岩淵駅で下車し芝山よりみのぶ道(現国道52号線)へ抜けて行き、また、降り道には富士川の渡船を利用した川下りが見物名所となつたとされています。参拝者は寶塔で道中安全祈願をし、旧東海道とみのぶ道の接点である舟山山に身を置くと、白装束に身を度々整え、身を清めてから身延詣に出発しました。

【富士川民俗資料館】 南松野の稲葉家(建坪26坪、周囲6.5m、奥行4m、間取り8畳4間、土間10坪)を移築したもので、江戸時代中期の富士川下流域の農業者の代表的な様式の家屋です。建物内部には、農具、民具などが常設展示されています。○土・日・祝日公開 ※平日の見学を希望する場合は要予約 ○富士山かくや姫ミュージアム(富士市立博物館) 0545-21-3380

【慈林寺(曹洞宗)】 心岳寺5世・太意孝興和尚が開創、天正10年(1582)、心岳寺4世・蒲山孝順和尚により開山されました。境内には横(目通り2.8m 高さ8m)があります。

【等覚寺(日蓮宗)】 正徳元年(1288)、日持上人が四十九の地に開山しました。寺の縁起によると、当初は持仏堂と小庵のみでしたが、次第に多くの土地を所有するなど、一時は隆盛をきわめましたが、永禄12年(1569)、武田氏の蒲原城攻撃により焼失してしまいました。現在地への移転は、永禄年中といわれています。

【宗清寺(曹洞宗)】 慶長2年(1597)、中之郷村名主・六郎左衛門尉に滞在していた浄藏守清和尚が、寺を創建し、安養寺4世・太意宗伯和尚が開山しました。宗伯は自分の宗派の寺としての清の字をとって宗清寺と名付けました。境内には、笠波地蔵と富士川梅園があり、富士山と梅が眺められます。

【宇多利神社】 明治8年、祭神に天照大神ほか6柱を勧請して祭祀していますが、もともとは七社権現社と称して、滋賀県大津市の日吉神社の前身である山王七社権現社の系統に属する神社で、明治初年まで宗清寺が支配していました。境内には、七社権現社当時の石灯籠があります。

にぎやか、にぎやか!

「先人たちが守り伝えた 年中行事」

1月14-15日	どんと焼き
2月11日	梅まつり(宗清寺)
2月28日に最も近い日曜日	木島不動尊例祭(木島)
2月の末日曜日	文殊祭(大寺町)
旧暦2月8日	荒澤不動尊(祭下町)
3月1日(日曜日)	東町稲荷社の初午祭(東町)
4月1日(日曜日)	明見神社例祭(岩淵地区)
4月1日(日曜日)	四十九薬師堂例祭(四十九町)
4月28日	鬼塔供養祭(岩淵地区)
7月1日	寶子母神例祭(等覚寺)
7月中旬の土曜日	祇園祭(岩淵地区・南松野地区)
7月23日に最も近い土曜日	清正公祭(般方区)
7月17日(土曜日)	地蔵尊大祭(宗清寺)
7月中旬の土曜日	風祭り(木島・南松野地区)
8月10日	川坂観音祭(川坂)
8月15日	川かん祭り・投げ松明(大北町)
8月16日	投げ松明(木島)
10月16日に最も近い土・日曜日	宇多利神社例祭(中之郷地区)
11月の日曜日	ふしかわ祭り(新豊院)
11月の第4日曜日	新豊院大祭(新豊院)

新豊院大祭 大正13年、大村西産翁伯が昭和天皇の御成婚を記念して描いた180名の皇親皇族の肖像をモチーフとした松明を投げ入れます。

投げ松明 富士川下流で唯一の川供養行事。竹で作った松明を約10mの木柱にくくりつけ、火のついた松明を投げ入れます。